

CAP 制について

【ご意見・ご要望】

別添参照。

【回答】（回答日：2020年5月12日）

（教育推進・学生支援部教務企画課）

CAP 制は、各学期に履修する科目の単位数の上限を設けることにより、個々の科目について予習・復習時間を確保し、課題レポートや定期試験の準備に十分取り組むことができるように設けられたものです。大学設置基準 第二十一条では、1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとなっています。通常の授業科目は15週で実施されます。したがって、通常2単位の授業科目の場合は、授業時間と授業外学修（予習・復習）の時間を含め1週につき6時間の学修を必要とする内容をもって構成されており、授業に出席するのみでは単位要件を満たさないことを十分にご理解ください。

また、履修科目を多く登録しても、十分な学修時間が確保できず成績が不合格になるケースがあることは、データ分析より明らかになっています。前年度の全学共通科目 CAP 制 34 単位についても、履修単位数と成績との相関関係を分析した結果、専門科目と併せて 30 単位が妥当であるとの結論に至りました。

特に理系学部の1回生ではクラス指定科目も多く、さらに語学も履修しなければならないという状況ですが、専門分野以外の興味のある科目の履修も大切です。1回生前期だけでなく、1回生後期や2回生以上でも履修可能ですので、4年間の中でバランスよく履修登録するよう心掛けてください。また、特に優秀な学修成果をあげる等、一定の条件を満たす学生に対しては、上限単位数を超えた履修を許可する制度もあります。

なお、CAP 制の対象科目は原則として卒業要件に算入するすべての授業科目です。対象外となる科目については、各学部にお問い合わせください。

今回いただいた意見については、今後の参考とさせていただきます。

【No. 1】（投稿日：2020年4月5日）

お忙しい中この意見をご覧頂き本当にありがとうございます。貴局もご存知の通り多くの学生の中で CAP 制に対する不満が募っております。大学側の慎重な協議を経た上での制度であることは重々に承知しておりますが、それでも納得し難い点が多々あるのが現状です。そこで学生の置かれた状況をお伝えすることで再審議をお願い申し上げたい所存です。

1. 学習意欲はあるものの、CAP 制により当選した ILAS セミナーやその他講義を辞退せざるを得ない学徒が少なからず出ている。
2. 限りある4年間の大学生活の中で大学側によって学べる事柄が制限されている。
3. 大学側が求める各郡単位数が CAP 制とマッチしていると言い難い

ここで一言申し上げさせて頂くと、この意見は CAP 制の完全な廃止を訴えるものではありません。たくさんの方が必要だと考えた上での制度であり、一定の効果があることは認めています。しかし、厳しすぎる、というのがこちらの意見です。意欲ある学生の足を引っ張る制度となっている現在の CAP 制は京都大学が標榜する学風の理念と矛盾するように思えますし、そもそもやる気がある学徒が学びを制限されること自体あってはならないと考えます。現在の CAP 制を緩めることは出来ないのでしょうか？それほどまでに今の CAP 制は完全に機能し、京大の学生に対する在り方として十分に体现できているのでしょうか？現在の CAP 制で意欲ある学生の勉学を妨げ(誇張ではありません)、足を引っ張ってまで現在ほどの CAP 制は必要でしょうか？

京大が「自由な学風」を標榜するからこそ、再検討をお願い申し上げます。ここまで読んで頂きありがとうございました。

【No. 2】（投稿日：2020年4月5日）

この春京都大学に入学した者です。すでに何通も同様の意見が来ていることだろうと推測いたしますが、僭越ながら僕からも重ねて申し上げます。

現在履修登録を行っており、疑念を抱かずにはいられないが履修の上限の存在です。農学部だと前期で30単位とのことですが、これは明らかに少なすぎるのです。特に疑問に思ったいくつかについて、ここで指摘させていただきます。

まず卒業要件として、我々理系の人間にとって縁遠いものである人文系の科目も履修が

必要になっています。上限がない、あるいは履修の障害とならないほどの上限設定であれば、これはこれまで触れてこなかった新しい分野を学び、教養、ひいては人間として豊かになれる大変意義深いものであると理解できます。しかし、現状だと、興味のある自然系や専門科目の履修を拒み、その代わりに興味のない科目の履修を押し付けるものになってしまっています。文系の学生にとっても同じことでしょう。これが僕が一番疑問に思ったところです。

それだけでなく、教職の道を志した者にとってこの上限が重くのしかかってきています。たださえ履修が厳しいこの現状で、さらに教職用の科目をとっていき、これは一部の学生にとっては事実上不可能に等しいものになってしまっています。京大から教師になることをよしとされていないのでしょうか。

また、このためにせつかく当選した ILAS や、まして数学などの常識的に考えて履修すべきだと考えられる科目を手放そうとしている新入生の存在も少なくない数確認しています。学習意欲の強い学生ほど苦しむこの地獄のような現状が、自由の学風を掲げる京都大学が望んだ結末ではないと信じています。

初めてクラシスの履修登録画面を見たとき、履修が推奨されている全学共通科目だけで30単位のうち28単位が埋まっていたのには乾いた笑いがもれました。そこに人文系の科目や専門科目を入れていくわけですから、これは、そちらの履修推奨科目とCAPがかみ合っていない何よりの証拠ではないでしょうか。現にこれまで多くの先輩方は30単位を超えて履修しておられたはずですし、それらの中に無駄な講義はなかったはずで、その中からいくつかを諦めなければいけないのはおかしなことではないですか？

僕たちが一回生で、履修における取捨選択が下手なだけで、もっとうまくやれば上限内でうまく履修できるのかもしれませんが、京都大学に入学し、魅力的な科目に囲まれ、心躍らせながら面白そうな科目を自由にたくさんとっていく。そして、自分がこれだと思ふ分野を見つけ、それを専門的に追いかけていく。これでよかったのではないですか？一回生前期は確かに学習が大変になるかもしれませんが、しかし、それを身をもって体験すれば、後期以降は自分たちで計算し、修正できる。京都大学が選んだ学生には、そのような能力は備わっております。

CAP 制の存在価値があるのも事実ですし、それはおそらく全員が理解しています。僕が望むのは、CAP の制約の緩和です。学部、学科ごとに異なるとは思いますが、具体的には農学部森林科学科一回生前期だと36から40単位が理想的だと考えます。

この CAP 制の導入の際、大学内でも多くの議論があったと伺っております。どのようにしてこの数字が導き出されたのかは存じ上げませんが、今後の京都大学の在り方にもかかわる非常に重要な問題だと認識しています。どうか再考していただき、できるだけ早い段階で改善されるよう、強くお願いします。

長文失礼しました。

【No. 3】（投稿日：2020年4月5日）

今年度入学の新入生から CAP 制の単位数が 30 になりました。また、学部によっては専門科目と全学共通科目併せて 30 単位になっています。特に一年生などは学部指定科目なども多く、学部で推奨されている科目を入れるとほとんど制限ギリギリになって、ILAS や人文社会群(理系の場合)などがほとんど取れない状況です。これでは自由な学習の妨げになっていて、「自由の学風」を前提とする京都大学にふさわしくない制度です。CAP 制の廃止する、もしくは単位上限を増やし、学部専門科目と別枠で数えるようにすることを求めます。

【No. 4】（投稿日：2020年4月5日）

文学部の新 1 回生の者です。本年度入学者より半期の CAP 上限が 34 単位より 30 単位に減ぜられたことについて、申し上げたいことがございます。新型コロナウイルス対応等によりご多忙である中で大変申し訳ございませんが、なにとぞご覧いただきたく存じます。

学生意見箱「CAP 制について」（投稿日：2019年6月28日）の【回答】（回答日：2019年8月5日）において、

1. CAP 制の導入に伴い、学生への不要な負担や不自由な学修を強いる可能性があるとは考えておりません。

とあります。しかしながら、ご存じとは思われますが、少なくない新入生の間から

「4年しかない学部生活で学べるのが制限されてしまった」

「CAP 制との兼ね合いで、折角当選した ILAS セミナーやその他講義の受講をあきらめざるを得ない」

「各郡単位数が CAP 制と合っていない」

「教職課程のものを取ろうとすると、興味のある分野の授業が全く取れない」

等の声が聞かれます。同じく【回答】において、

なお、特に優秀な学修成果をあげるなど、一定の条件を満たす学生に対しては、上限単位数を超えた履修を許可することを可能としております。

とありますが、このような上限 30 単位という厳しい状況下では、新入生の学習意欲が削がれてしまい、さらには履修を制限されることにより優秀な学修成果をあげる機会と可能性が減ってしまいます。どうか来年度の CAP 制につきましては、学生へのアンケート等を行い実情を把握していただきながら、可能ならば昨年度並みの水準に戻していただきたく存じます。

【No. 5】（投稿日：2020 年 4 月 6 日）

令和 2 年度の入学者を対象とした CAP 制の制限緩和を求めます。

1 回生前期に履修が推奨・要求される科目の合計で既に 30 単位であり、卒業に必要な人文科目や ILAS セミナーの履修を諦めなければなりません。これは、大学から求められる各郡単位数と現在の CAP 制がかみ合っていない証拠ではないでしょうか。

とはいえ、必修以外の科目は履修の選択が可能であり、分野を絞って選択すれば上限 30 単位でも問題ないのかもしれませんが、しかし、1 回生の段階でどの分野に進むか明確な意思がある人は少なく、幅広い分野の学修が妨げられているように感じます。

1 回生に限らず、少なくない学生が現在の CAP 制に不満を持っていることが散見されます。それにも関わらず、不自由な学修を強いる可能性はない、と一方的に断言されるのは、学生の意見を疎かにしているように思われます。

CAP 制の役割は十分理解できますし、必要であると思います。が、制限が厳しすぎるのではないのでしょうか？

【No. 6】（投稿日：2020 年 4 月 7 日）

工学部地球工学科新一回生の〇〇と申します。

現在履修登録をしているのですが、CAP 制のために自分の取りたい科目が取れず、他の学生からも同様の声が多くあがっているので意見箱に投稿させていただきます。

他学部については把握していないのですが、工学部の取得単位上限は現在 30 単位までです。私のデフォルトでの時間割も既に 30 単位であり、私は I-LAS セミナーを受講しているため、合計 32 単位となり、いずれかの講義の履修を削除しなければならない状況です。また、上回生の先輩には人文・社会群科目を一回生のうちからバランスよく履修することを推奨されたのですが、人社系科目を取るには自然群科目の履修を諦める必要があります。

私はコース選択の幅を広げるために自然群をできるだけ履修したいので、興味のある人社は履修しないことにし、また I-LAS セミナーにせっかく当選したので、迷いながらも

基礎化学実験の履修を削除しました。

周りには、クラス指定科目をとるために I-LAS セミナーを諦めた人、クラス指定の自然群を諦め人社を履修する人など、興味のある講義を諦めなければならない人が大勢います。

上記の問題点とそれに関連した問題点をまとめますと、

- ・ 講義の雰囲気分からないなか、シラバスのみで講義を削除しなければならない。
 - ・ 履修取り消しの制度を使うと単位数が 30 単位未満になるため卒業が危くなるため、現状履修取り消しの制度が機能しない。
 - ・ 人文・社会群や I-LAS セミナーなどの履修を諦める必要があり、単位取得の自由度が下がっている。
- などがあります。

理系・文系にかかわらず自分の興味のある分野の学問を選択し、最先端の研究を行う教授に指導していただく、そんな理想を抱いて京都大学を目指してきました。それができないだけでなく、新入生に指定科目の講義を切ることを強いるような制度に、私だけでなく多くの学生（一回生や上回生の先輩）が疑問を抱いています。

つきましては、30 単位という取得単位上限の根拠の説明および上限の緩和などなんらかの救済措置を求めます。

新型コロナウイルスへの対応、それに付随する様々な問題への対応で、大変な時期であることは理解しておりますが、新入生のこれ以上の混乱を避けるために、ご検討とご回答を何卒よろしくお願いいたします。

【No. 7】（投稿日：2020 年 4 月 7 日）

今年度の入学者に対し、専門科目も含め 30 単位が取得上限となっておりますが、学生にとって（特に工学部）大きな不利益となっているために、改善を求めます。

まず多くの工学部の場合、初めから履修を推奨する科目として 30 単位分の授業が組まれており ILAS セミナーを入れるだけで、単位超過が起こってしまう。これにより、卒業要件に必要な自らが学びたい人文社会系の授業を入れることができないどころか、少なくとも一つの講義を取り消す必要が出てきます。また、学習意欲にあふれた方（具体的には教職科目を履修する方など）が卒業要件に含まれない科目を学ぼうと何らかの講義を履修しようとしても、専門科目が CAP 制に含まれてしまうと一年留年をせざるを得ない状況になります。多くの奨学金は留年をした時点で取り消されてしまうため、金銭的に苦しい学生などは教職の取得や様々な講義を受講する権利を実質的に失うことになりかねません。

つきましては具体的な改善策として、現二回生世代と同様のCAP制に戻す、または、学部学科に対して柔軟な対応をする、などして学生が様々な講義を受講できるような環境づくりに努めていただくようお願いしたいです。